

1 今年度の取組と自己評価 () の数値は、平成 30 年度である。

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学力向上体制の確立

学力向上委員会を中心に、アクティブ・ラーニング推進プロジェクトチームと連携しながら都立学校学力スタンダードの策定やその活用とともに、平成 30 年度からの「進学指導研究校」に加え、本年度からは「東部学校経営支援センター特別指定校」の指定を受け、外部模試の分析、教員の授業観察等を通して、生徒の学力向上を図った。また、外部模試等を活用した生徒の学力の定点観測を行うことで、ホームルームでの面談や教科会等での活用に努めた。また、生徒の自学自習の支援を図るため、昨年度に引き続き、放課後の生徒の学習支援に向け、自律予算によるチューター制度を 178 (258) 時間実施した。相互授業参観は目標 250 回に対して 223 (253) 回実施し、教科指導の改善に努めたことで、授業に対する肯定的評価は目標である 85 % を達成できた。また、習熟度別授業等でのきめ細やかな指導をはじめ、生徒を朝学習や講習、大学教授による出前授業等に取り組ませることで、その学習意欲と学力の向上に努めた。なお、家庭学習時間は週当たりの平均が、目標 760 分に対して 507 (537) 分に留まったことは、次年度への継続的な課題である。

今年度、英語検定は 1～3 学年全員受験として、2 級合格者 50 名 (19 名)、準 2 級 201 名 (36 名) と躍進した。読書の奨励については、昨年 to 引き続き今年度版の「本所の 100 冊」を制定し、全生徒に読書感想文を課すことやビブリオバトルの取り組みもあり、未読者率は目標 3.0 (3.5) % 未満に対して 0 % と成果があげられた。また、今年度 1 学年より実施している「総合的な探究の時間」における取り組み効果により、図書 の貸し出し数の増加が見られた。なお、次年度は学校経営支援センターの支援を受けながら、教科間、学年と教科の協力による外部模試の分析や、定期考査の検証と学力データバンクの活用等を進める。また、面談力を高める研修を計画して、進学指導力の向上を図る。

今年度も大学進学希望者の自己実現に向け、様々な機会を利用して機会あるごとにチャレンジ精神の開拓を指導することで生徒の意識を啓発し、一般受験生徒の啓発・増加に努めた。その結果、センター試験受験者は目標 150 名以上に対して 113 (163) 名であった。長期休業日中の講習を目標 700 時間に対して、330 (624) 時間の実施となり及ばなかったものの、今年度は講座の同時展開を極力解消したことにより、受講者数が増加した。(82 講座延べ 1089 名受講) 朝学習とともに、センター講習及び朝・放課後講習は実施できたが、生徒一人ひとりの受験指導等の支援は引き続きの課題となる。また、一般受験の増加に伴い浪人生の割合が増える中、進路実現率は目標 97 % に対して 96 (223 / 233 名) (100) %

であった。難関大学の現役合格者数は目標 100 名以上に対して、GMARCH 以上 13 (42) 名、日東駒専 45 (49) 名を含め 58 名となった。来年度も、生徒の挑戦する意識を醸成することで、進路決定における第一志望の実現を支援していく。

イ キャリア教育の充実

キャリア教育プログラムの充実に向け、近隣の福祉施設、保育所、病院におけるインターンシップを実施。1～3 学年の希望者 44 名が参加した。2 学年では探究学習教材「エナジード」を用いて、正解・不正解といった尺度ではなく「自分自身の答え」を導き出す活動を通し、多様に変化する社会に対応するための人間力の育成に努めた。また、グループワークによる協働、プレゼンテーションによるアウトプット活動の練習も行った。1 年生全員・2 年生の希望者には「夢ナビ」に参加、1 年生全員の「キャンパス訪問」、1・2 年生対象の「大学説明会」と「出前授業」など、進路指導部や学年を中心にキャリア教育の推進に取り組んだ。引き続き、インターンシップへの取組みについては、生徒や保護者のニーズに応えることで、その活性化を図っていく。また、キャリア教育に対する肯定的評価は目標の 80 % に対して、昨年度の 80 % から 83 % と上昇した。なお、一般受験へ挑戦する生徒の増加傾向は変わらず、引き続き、キャリア教育の推進での生徒のチャレンジ精神の開拓に努めていく。

ウ 規範意識の醸成

登校時の正門指導をはじめ、挨拶の励行、遅刻指導、頭髮・服装指導を継続的に徹底し、落ち着いた校風の維持を図り、良い生活習慣の中で社会人としてのマナーを身に付けさせることで、遅刻率は目標 1 % 以下に対して全体では 1.25 % と昨年度の 1.27 % より改善した。次年度は遅刻者を減らすための朝学習の意義と工夫の統一を図る。また、授業時間のチャイム始業・終業を徹底することで、組織的な授業規律の徹底に努めた。なお、正門指導等での自転車での通学マナーの啓発とともに、7 月のセーフティ教室、12 月の薬物乱用防止教室により、交通安全等について指導・徹底するとともに、道徳教育についても学校全体で推進し、交通事故等の防止に努めた。さらに、4 月のいじめ防止研修、5 月のいじめ防止集会とともに、年 3 回のアンケート実施を開催することで、その防止に組織的に努め、いじめは 0 件となった。引き続き、本校の伝統である落ち着きある校風の維持とともに、いじめの防止に努めていく。

エ 健康の増進と体力の向上

栄養・睡眠・運動と健康の関係について、各教科及び部活動・特別活動で指導し、生徒の健康維持、体力向上を図らせることで、日頃より、規則正しい生活習慣を身に付けさせることに努めたが、皆勤率は目標 20 (33) % に対して 19.8 % (20 %) に留まった。また、体育祭やマラソン大会、球技大会の体育的行事を充実させることで、生徒にスポーツする楽しさを味あわせるとともに、生徒の基礎体力の向上に努め、体力テストは目標全国平均に対して東京都平均を上回った。次年度は、生徒の体

力テストの種目の理解に努めるとともに、生徒が意欲的に取り組む体制を構築することで、体力の向上に努めていく。

オ 部活動及び特別活動の活性化

生活指導部を中心に、各部活動の目標を年間計画で設定し、その実現に向け計画的に日々の活動に取り組むとともに、儀式や全校集会での表彰やホームページでの活動報告等により、部活動の活動や実績を全体で共有し意欲を喚起した。上部大会の出場においては、ボート部の関東高等学校選抜ボート大会出場、水泳部の関東大会出場等の成果をあげた。部活動参加率は目標 90% に対して昨年度と同じ 90% を維持した。研究部（文科系部活動）についても、文化祭の内容を充実させ、自主的な生徒の発表の場とさせるなどして、「部活動全般の充実」に対して、その肯定的評価は目標 85% に対して 83% から 87.3% と目標値に近づいた。次年度は、手狭な施設を効果的に活用しながら、部活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な活動を組織的に支援することで、文化祭とともに、芸術鑑賞教室や体育祭、マラソン大会、球技大会等の学校行事の活性化も図っていく。

カ 国際理解教育の促進

グローバル社会で活躍する人材の育成を目指し、「留学生が先生」や「E U があなたの学校へやってくる」「SDGs を通じて持続可能な社会について考える」等の講演により、国際理解への関心が高めている。さらに、来年度の新規事業として「オンライン英会話」や「SDGs 海外研修旅行」を実施して、さらなる国際理解と英語教育の向上につなげる。

(2) 重点目標への取組と自己評価

ア 組織的な課題解決と服務規律の徹底

主幹会議、企画調整会議の週 1 回の開催や面談等において、管理職と教職員の意見交換を行うことで、学校の課題を明確にし、組織的な課題解決を図った。また、校内研修の実施により組織マネジメントを向上させ、人材育成を組織的かつ計画的に行うことで、教職員の経営参画への意識の啓発に努めた。また、日々、注意喚起を行うとともに、服務事故防止・個人情報紛失防止・体罰防止研修を開催することで、服務事故の防止に努めた。さらに、事案決定及び予算策定・執行について、適正かつ迅速に行うことで、予算や施設整備については、計画的かつ適正な執行に努めた。なお、次年度も会計事故等の防止に努めていく。

イ 地域及び保護者との連携強化

公開講座の開催とともに、「総合的な探究の時間」を代替する「人間と社会」の体験活動として行う地域貢献を核にして、清掃活動や商店街活性のプラン、祭りをはじめとした地域で開催される行事等に生徒を参加させることで、学校として地域との連携を図った。また、年に 3 回開催する学校運営連絡協議会では、学校評価委員会による学校評価等を活用することで組織的な課題改善に努めた。次年度は、地域等への情報発信のさらなる充実を図る。

ウ 広報活動の充実

ホームページを定期的に年130（155）回更新して目標の120回を達成するとともに、「学校だより」を3回発行し、生徒・保護者及び学生に対し、学校の取り組みを紹介するなど、学校の教育活動の発信に努めた。また、学校見学日直の配置等で、学校見学会の受け入れを1日1から2回と増やし態勢を強化した結果、夏期長期休業中の見学者が1,397（1,465）名を記録した。校内での学校説明会を中学生・保護者対象で4回、塾対象で3回開催した。さらに、外部での説明会に15回参加するとともに、中学校115（112）校を訪問するなど、中学生や保護者や中学校教員等にも組織的・計画的に対応することで、本校の教育活動を広く知ってもらえるように努めた。なお、入学選抜では、中進対予想倍率1.54（1.93）倍、推薦応募倍率2.80（4.35）倍、一次応募倍率1.79（1.99）倍と高倍率は維持した。引き続き、来年度も広報活動への取り組みを工夫することで、その充実を図る。

エ 防災体制の構築

総務部を中心に防災体制を整備するとともに、防災教育推進委員会を年3回開催することで、地域町会や消防署等の外部との連携を強化や広域避難指定公園までの防災訓練等の企画・課題検討等に努め、緊急時の対応能力を高めた。また、校内に防災活動支援隊を組織するとともに、危機管理マニュアルを一部改訂し、有効に活用できるよう備えた。さらに、1年生で実施した宿泊を伴う防災訓練や東京都総合防災訓練への参加とともに、年4回の避難訓練では、避難のルール「おかしも」を徹底し、消防署や行政等の地域の関係機関と連携することで、計画的かつ実践的に実施した。次年度も地域での防災連携に努めていく。

オ 安心できる学校生活の維持

新入生の全員面接や校内研修会の実施とともに、「相談室だより」の発行など、スクールカウンセラーを活用することで、生徒の心の健康維持に努めた。また、7月のセーフティ教室、12月の薬物乱用防止教室の実施により、生徒の危機管理への意識向上に努めた。さらに、怪我や熱中症、感染症の未然防止に努めるとともに、学校保健計画に基づき、心身の健康に関する取組を行い、健康の維持・増進を図った。次年度も組織的な節電に努めながら、環境週間の取り組み等により、省エネ等への意識を高めるとともに、ごみの減量も含めて、保健部を中心に、校内の清掃を徹底することで、清潔な環境を維持していく。

2 次年度以降の課題と対応策

（1）学習習慣の確立と授業力向上

ア 生徒の自学自習を支援するため、スターディサブリ、c l a s s i等の活用と、各学年と関係分掌の連携を強化して、家庭学習時間等の拡充を図る。

イ 各教科がきめ細やかな指導に取り組み、生徒の学習意欲と学力の向上に努める。

ウ 相互授業参観をはじめ、アクティブ・ラーニングの活用等、授業力向上のための校内研修を充実させる。

エ 外部有識者や学校経営支援センターの指導、校内研修の充実により、学校外の動向を把握し校内体制の改善を図る。

(2) 生活指導と進路指導の充実

ア 正門での挨拶指導の継続等により、落ち着きある校風を維持し、良い生活習慣の中で規範意識や社会人としてのマナーを身に付けさせるとともに、身だしなみ指導の充実を図り、新制服の検討も視野に入れながら取り組んでいく。

イ 引き続き、生徒のチャレンジ精神の開拓を図り、その進路決定における第一希望の実現に向け、生徒一人ひとりの模試結果を分析するケース会議を年3回は実施して進学指導体制を構築する。

(3) 広報活動の充実

ア 内外の学校説明会や部活動体験・授業公開、中学校・塾訪問を組織的・計画的に実施する。塾と年2回以上の交流で、本校の教育活動の紹介と中学受検生や入試情報を得る。

イ ホームページやパンフレットのさらなる改善に努め、教育活動の情報発信を充実させる。